

[成果情報名] 夏季に連続して開花するマーガレット属間雑種「伊豆 49 号」

[要 約] マーガレットとローマンカモミールの交雑により、薄桃色の花色、小輪多花性で、夏季に連続して開花する「伊豆 49 号」を育成した。本品種はマーガレットとローマンカモミールの交配で育成された世界初の品種である。

[キーワード] 鉢物、マーガレット、新品種、交配育種

[担 当] 静岡農林技研・伊豆農研セ・生育・加工技術科

[連絡先] 電話 0557-95-2341、電子メール agriizu@pref.shizuoka.lg.jp

[区 分] 関東東海北陸農業・花き

[分 類] 技術・普及

---

### [背景・ねらい]

鉢物用マーガレットは、静岡県東部地域の鉢物主力品目として生産されており、市場や産地から、多彩な花色や新しい特徴を持ったオリジナル性の高い品種の育成が求められている。このため、近縁の植物種を用いた交雑育種により、新規性の高い鉢物用マーガレットの新品種を育成する。

### [成果の内容・特徴]

- 1 育成経過：2018年に静岡県農林技術研究所伊豆農業研究センターにおいて、マーガレット育成系統「P12-26-1」を種子親、ローマンカモミール「保存系統」を花粉親として交配を行った。交配後に胚珠培養\*1を行って得た34個体のうち開花した2個体を優良個体として選抜した。選抜個体に「I18-44-01」の系統名を付与して増殖し、所内および現地ほ場で生育、開花特性に注目して選抜を行った。その結果、「I18-44-01」は新品目として有望性が認められたため、育成系統候補「伊豆49号」とした(図1)。  
\*1 胚珠培養：将来種子となる部分(胚珠)を子房から取り出し培養すること
- 2 生育特性：「伊豆49号」は、薄桃花、半八重咲き、極小輪タイプの品種で、4月下旬から11月まで長期間開花する(表1、図2、図3)。
- 3 現地鉢物適応性：「伊豆49号」は、現地生産者ほ場における鉢物適応性試験においても良好な生育を示し、耐暑性が強く、コンパクトな草姿で、既存のマーガレットやほかの雑種と開花時期が異なるなど、新規品目として評価が高かった(データ略)。
- 4 現地植栽適応性：「伊豆49号」は、現地観光施設(河津町)の露地植栽用コンテナにおける植栽適応性試験において、コンテナを覆うようにマット状に生育し、7月下旬の定植以降12月まで連続して開花し、評価が高かった。

### [成果の活用面・留意点]

- 1 本品種は、マーガレットとローマンカモミールとの交配で育成された世界初の属間雑種\*2品種である。  
\*2 属間雑種：生物分類上で異なる属(genus)に分類される生物の間での交雑によりできた雑種。一般的に両親が遠縁なほど交雑が難しいため、種間雑種に比べて雑種の作出が困難である。
- 2 種苗法による品種登録出願を検討しており、栽培にあたっては静岡県との許諾契約が必要である。

[具体的データ]

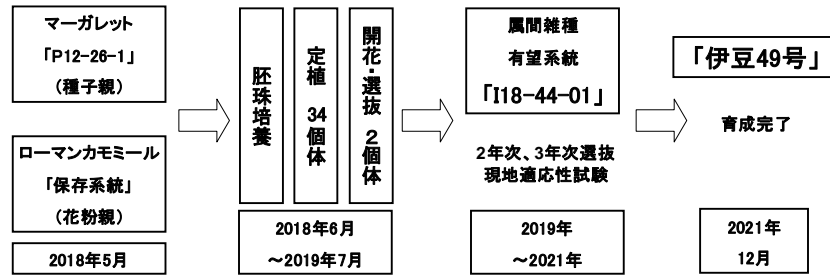


図1 マーガレット「伊豆49号」の育成経過

表1 「伊豆49号」の生育開花特性（2020年、所内試験）<sup>1)</sup>

系統名	開花開始時期	開花終了時期	花色	花型 <sup>2)</sup>	草丈 (cm)	株張 (cm)	一次分枝数	花蕾数	花径 (mm)
伊豆49号	4月下旬	11月中旬	薄桃	半八重	24.5	36.9	7.0	67.7	35.8
P12-26-01 <sup>3)</sup>	3月下旬	7月下旬	赤	一重	28.3	33.6	5.3	57.3	49.4

- 1) 2020年11月12日挿し芽、12月3日定植、12月16日摘心、無加温栽培  
 2) 品種登録特性基準により記載  
 3) 対照品種（種子親のマーガレット）

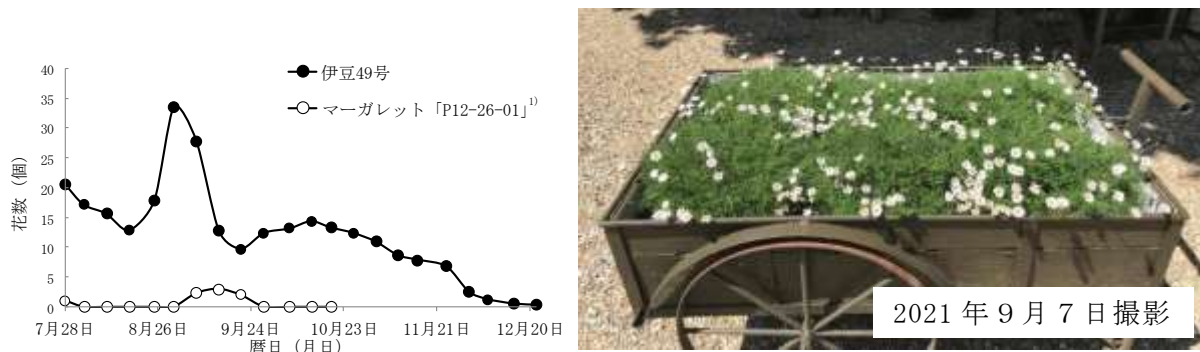


図2 現地観光施設（河津町）における「伊豆49号」の開花数の推移(左)と開花の様子(右)

1) 種子親、10月19日に調査打ち切り



図3 「伊豆49号」の花型(左)と開花時の草姿(右)

[その他]

研究課題名：伊豆特産花きの新品種育成と特性解明

予算区分：県単

研究期間：2021～2025年度

研究担当者：勝岡弘幸、藤井俊行、加藤智恵美、馬場富二夫